



第1回 にぎわい部会（令和6年6月28日開催）

委員からのご意見・質問と区の考え方

番号	委員	意見・質問等	当日の回答	対応(区の考え方)	担当
1	庄野委員	〔緑化推進事業について〕 年2回地域へ、年間約5万株出荷されているが、この中には小学校の子どもたちが育てるアサガオとかも含まれているのか。 この緑化推進事業の魅力を伝えていくには、子どもたちが植物を育てていくことを経験することも大切だと思うので、小学校全体とか、また中学校に出荷ができるようになったら緑化も進んでいくかなと思った。	先日、1つの学校ですが、ジュニア緑化リーダー講習会というのを開催し、子どもたちにお話をさせていただき、講習会終了後、生徒さんにより、なにわ筋沿いの花壇に花を植えたりいたしました。また各学校でも、お花を育てていただいておりますので、大人だけではなくお子さんから、また小さいときからまちに愛着を持っていただいております。	本事業で育てた花を区内の一部の小中学校、保育園、福祉施設、公園、道路など様々な場所に出荷しています。 なお、本事業で出荷する花については、小学生が学校で育てているアサガオは含まれておりません。	市民協働課
2	上田委員	〔施策同士の重なりについて〕 福祉の取組みの中に防災のことが含まれているというふうに、それぞれの取組が実は様々なほかの要素と重なっている部分があると思う。取り組んでいるこの事業が西成区の様々な施策と重なり合っているというのが自覚できたら、さらに連携が増えていくのではないかと。 表の作り方だと思うが、この部分と、この部分が重なっているよという示し方もあると思う。そうすることで、この施策がこの部分だけではなくて、より広がっているということが意識されるといいと思う。	施策と施策が有機的につながったときに、一つの西成区の特徴というのを打ち出せると思います。今後そういったことを意識しながら施策の取組みを進めていきたいと考えております。	運営方針の策定にあたり、共通様式を用いることとなっているため、経営課題ごとに記載しておりますが、それぞれの施策を多面的にとらえ、施策としての広がりや関連性を意識できるように打ち出し方について、今後検討してまいります。	総務課 総合企画課
3	宮尾委員	〔魅力発信について〕 魅力発信事業について、区内の魅力発信と区外の魅力発信というのは難しいと思う。 ユーチューブとかで、西成区の簡易宿所とか、安い食べ物屋とか、そういう発信がいっぱいある。それを区外の人たちが見て、物見遊山で観光客が西成区に来る。それはそれでいいと思うが、西成区内には、西成ごこち博物館というイベントもあり、地道にお仕事なさっている人たちがいっぱいいる。にぎわいという形でいうと、区内の人は区内で、地道に中小企業で頑張っておじさんとか、商店街で頑張っておばさんとか、そういう人たちのいるまちであるとか、また大フィルとか、そういう文化的なことや、昔の天下茶屋の由緒ある太子地域であるとか、そういう発信というのが、あるのではないかと。	区外の人とか、とりわけ他府県の人と話していると、昔のイメージが先行しているところがあり、そういうイメージの払拭には、来て見ていただくことが一番いいと考えておりますので、そういう趣旨もあって、いろいろな取組みをさせていただいております。	当日の回答のとおり	総合企画課
4	上田委員	〔地域の魅力発信について〕 新今宮ワンダーランドについて、ウェブサイトなどを見ていくと、随分深掘りして歴史や背景を紹介されていて、本当に物見遊山というよりは、より深く知ってもらいたいというアピールを感じる。 地域の中で働いて暮らしてらっしゃる方々のユニークさ、面白さ、真面目さ、本当にすばらしいと思うが、身近にいる人は当たり前過ぎて、なかなか共鳴しづらいと思う。むしろそういうのは離れた人たちのほうが発見がでたりする。 だから、外からの人にはしっかりと中側を知ってもらうようにして、それを発信していただけるような仕掛けとか仕組みとか媒体というのがつくれたらいいと思う。私はインタビューに行って記事を書いたり、まちの工場のおじさんのところへ行きたいなと思うし、そういうことが得意な人とか、したい人たちを、西成区内だけじゃなくて区外からも呼び出して、そんなのをつくってみたいと思う。	全て把握しているわけではないので申し訳ありませんが、確かに近隣区や、その辺力を入れてるところはあると思います。 地域資源があるところはアピールするののも一つのやり方で、例えば、祭りを毎年やっていますが、その辺何が西成区で掘り起こして、何か発信できて、それを魅力につなげることができないかと思っているところです。 過去の事例を参考にしながら、西成でできることはやって、それ以上に何かプラスアルファでできることがあれば、実施の可能性等を検討するにあたっては、皆様のご協力をいただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。	当日の回答のとおり	総合企画課
5	小林委員	〔地域の魅力発信について〕 24区の中で地域の魅力発信、産業や文化を結構積極的にされている区や、そういう事例というのはあるのか。			
6	高橋委員	〔無保険世帯のピックアップについて〕 無保険の世帯をピックアップする方法はないか。 保険がなく、医者へ行きたいと思っても行けない、相談できない人がたくさんいると思う。健康保険のない世帯をピックアップできれば、犯罪も防げるし、本人も正常に、また働くこともできるんじゃないかと思う。	保険に入っていない人を見つけることは、個人情報とかもございまして、なかなか難しいかと思えます。 日頃、高齢者や、認知症の方、障がい者の方など、いろんな方の相談に乗っており、こういうところに相談窓口がありますよということは広報させていただいていますが、社会とのつながりが希薄な世帯に限って言えば、なかなか自分から相談に行かない、自分では困っていないというふうにしていらっしゃる方が多くて、私たちも悩んでいる問題ではあります。 そういうときは、地域の方々からお声をいただいて、包括や社協その他、いろいろな相談機関と協力して、お宅へ訪問したりして、サービスにつないだりということは日々やっている状況です。	当日の回答のとおり	生活支援担当 福祉担当

番号	委員	意見・質問等	当日の回答	対応(区の考え方)	担当
7	小林委員	〔非課税世帯のチェックについて〕 無保険の人を見つけるのが難しいなら、非課税世帯のチェックはできるのか。	非課税の情報については、大阪市の税務担当部署が持っている情報もございますので、業務上必要ということであれば、個人情報の関係もありますが、調整して進めていくことは一定可能というか、検討はしていけるかと思います。	区といたしましても、何らかのサポートが必要な方への確かな支援を行うためには、どのような情報が必要となるのか、当日に口頭回答いたしましたように、個人情報保護の観点等も踏まえまして、検討してまいります。	生活支援担当 福祉担当
8	小林委員	〔地域活動の担い手の確保について〕 地域活動への現役世代の参加促進、地域活動の担い手不足ということが叫ばれて久しい状況だと思う。 西成区に限らず、どの地域でも、これまで地域活動を担ってきた方が高齢化していたり固定化していたりと、町会も加入率の減少が進む一方、現役世代などの新たな担い手がなかなか増えていかないなど、地域活動の担い手の不足は深刻な状況だと思う。これから本格的な高齢化社会を迎えていく中で、地域における福祉課題の解決ということが重要になってくと思うが、その解決に向けた福祉ボランティア活動の担い手不足について、同様に深刻な状況となっていると思う。 区役所として、いろいろ取り組んでいるということだが、そのあたり、もう少し具体的に教えてほしい。	区役所としても、地域活動への現役世代の参加促進につながる取組が重要であると考えております。そのために、防災など区民の関心が高い取組みであったり、地域の魅力などを活用して、区民、とりわけ子どもとその親世代が気軽に参加できる場や機会をつくりまして、町会加入をはじめとする地域活動への参加につなげてまいりたいと考えております。 また、大阪市では、町会への加入世帯数が減少し続ける中、町会加入率の低下に歯止めをかけるために、令和6年3月に、区長会議において、大阪市町会加入促進戦略を策定しました。この戦略では、集合住宅への働きかけの強化、ICTを活用した情報発信、デジタル技術を活用した町会活動の支援などに取り組んでいくこととしており、これらの取組みも通して、地域活動への参加や担い手の確保につなげていきたいと考えております。 また、第2期西成区地域福祉計画に取り組んでおり、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続ける地域づくりに向けて取り組んでいます。地域で暮らす方々が自分の住む地域に関心を持って、気にかける、つながる、支え合う地域ということを目指しております。広く地域活動に関心を持ってもらうために、昨年のポッチャ大会に多くの地域の方が参加していただいたように、まずは参加してもらうための情報発信と、更なる参加促進に重点を置いて取り組んでいます。 また、地域の企業や、NPO、社会福祉施設や福祉事業者の方々につきましても、地域の社会資源でもあり、地域の担い手として、集いの場であるとか、見守りの場であるとか、そういうところの場づくりに協力して一緒に取り組んでもらっております。	町会加入促進に取り組むにあたり、区や地域ごとに特性が異なることから、それぞれに効果的な町会加入促進策については、地域特性に沿った手法が求められます。区や地域の現状を把握したうえで、優先順位を決めて効果的な施策に取り組むため、「西成区町会加入促進アクションプラン」を策定し、町会等の取組支援を行い、町会等と協働で加入率向上に取り組んでまいります。	市民協働課 福祉担当
9	宮尾委員	〔人情マガジンにしなりの発行回数について〕 「人情マガジンにしなり」の発行回数について、編集委員をしていた時、年2回だったと思うが、	資料に出させてもらってる分につきましては、一般的にということ、今年度、年1回作りますということでございます。	「人情マガジンにしなり」の企画内容等については、編集会議で決定しております。 発行回数については、令和4年度は1回、令和5年度は2回発行しております。	市民協働課
10	宮本委員	〔まちの美化および犯罪について〕 犯罪が多いということで、犯罪の多いまちはやっぱりまちが汚れている。汚いと犯罪は起こる。アメリカのニューヨークでも、犯罪があまりにも多いので、地下鉄の電車なんかも落書きをきれいに消して、まちもきれいにしたら犯罪が減ったという。西成区は大変きれいなまちになっているので、昔ほど犯罪も少ないと思うが。	現在は、不法投棄であったり、放置自転車の撤去といった環境整備も進めておりまして、この辺は引き続き粘り強く続けていかなければいけないかなというふうにも思っておりますし、また、まちの美化ということで、沿線道路などに花を植えて、美しい景観ということで取組みも進めておりますので、引き続き頑張っていきたいと思います。 防犯に関しましては、確認のうえ後日お答えいたします。	落書き対策については、消去活動に取り組む団体に対して資材の提供や貸与などの支援を行っています。また、不法投棄や放置自転車の対策を行うとともに、景観の向上を図るため、区内の道路などに花を植える取組も行っています。引き続き、区民が安心して暮らせるまちとなるよう取り組んでまいります。 西成区内の犯罪については、昔と比べると減少していますが、昨年、2,251件発生し、24区中4番目に多いことから、引き続き警察と連携して、犯罪の抑止に向け取り組んでまいります。	市民協働課
11	小林委員	〔あいりん地域の人口について〕 前の大阪万博の頃に日雇労働者がたくさんやってきたが、その頃に来た人って今ほとんど亡くなっている印象がすごくあり、あいりん地域って高齢化率が高い中で、今、人口減少が結構進んでいるイメージだが、その頃の人たちというのはどうなのか。	—	前の大阪万博の頃に転入した日雇労働者の方々についてのデータはありませんが、あいりん地域の昭和50年当時と令和6年7月時点の人口を比較したところ、2割以上の減少が見られます。この傾向は区内全域の比較でも同様で、3割近い減少となっております。	総務課
12	小林委員	〔サービスハブ構築・運営事業が再犯の防止につながっているかについて〕 所得の問題であったりとか、あとは地域とのつながり、人とのつながりの中で抑止できるものであったりはあると思うが、その点、西成区で実施しているサービスハブ構築・運営事業というのは、この地域に流れてきた中で、例えば刑務所を出た後の方というのもしゃるが、その方たちが安心して安定して暮らしていけるようなサポートをしていて、それが結果的に再犯の防止にもつながっていると思うがどうか。	—	犯罪や非行をした人の再犯を防止するためには、社会復帰後、住居・就労の確保の支援等、地域社会で孤立させない「息の長い」支援等が必要であることから、大阪市では、「大阪市再犯防止推進計画(第2次)」を策定し、国、府、民間団体その他の関係者と連携、協力し、再犯の防止に取り組んでいます。 ご指摘の西成版サービスハブ構築・運営事業においては、安定した生活を送るための支援から就労支援まで、困難層の人への切れ目のない社会参加の支援を行っておりますので、結果として犯罪や非行をした人の再犯の防止にもつながる面があるものと考えております。	市民協働課 生活支援担当